大学生を参加対象とした冬山研修会について

平成 21 年 12 月　　国立登山研修所

大学生を参加対象とした冬山研修会については、平成 12 年３月の大日岳遭難事故以来休止してきたところですが、同遭難事故訴訟の和解が成立したことを踏まえ設置された「登山研修所の大学山岳部リーダー冬山研修会に係る安全検討会（平成 19 年 12 月、文部科学省に設置）」において、この研修会の再開の是非を含め議論がなされ、平成 20 年７月、報告書として取りまとめられました。

報告書では、冬山研修会の安全対策の基本的な考え方等が示され、登山研修所がこの安全対策を徹底するための方策を講じた上で、冬山研修会を早期に再開し、将来にわたって継続的に実施され、充実されていくことを強く期待するとの御提言（以下「安全検討会の提言」という。）をいただきました。

登山研修所では国立登山研修所専門調査委員会、講師や地元登山家の皆さん等の協力を得て、安全検討会の提言を踏まえ、これまで講じてきた安全対策を再整理、補強することを含め改めて調査・検証も実施し、さらに研修実施上の安全確保を徹底するための具体的・技術的な方策について一つ一つ検討を積み重ねました(「大学生登山リーダー冬山研修会の安全確保対策について」参照)。

そして、平成 21 年度事業計画では予定としている今冬の研修会開催に向けて、気象・積雪等の情報蓄積への科学的アプローチをさらに充実させるための冬山前進基地の気温・積雪観測装置の新設や登山研修所の積雪観測装置への気温計の設置等の諸準備を行うとともに、具体的な開催日程等についても併せてさらに検討を進めてきました。

大学生の登山リーダーを養成するための研修会充実の必要性（登山事故の未然防止のみならず全国各地の中核的な登山指導者へと成長し登山文化の担い手となるサイクルの活性化を図る。世界で活躍できる登山者を育成する。）や休止している冬山研修会の早期再開に対する登山界等からの要望を踏まえつつ、冬期の研修会を含めた大学生の登山リーダーを養成するための研修会を継続的に安全かつ充実・発展させていくこと等を勘案して、冬期の研修会を大日岳山域や鍬崎山山域への本格的な入山を伴わない雪上研修会として今年度から２年程度開催し、研修参加者の登山に関する実力等の再確認や気象・積雪等の情報蓄積への科学的アプローチ充実の見極め等を行った後、段階的に冬山研修会として充実させていくこととしました。